

第3回J-HOP東北ブロック研修会 福島大会 テーマ「口」



写真は郡山市布引高原のひまわり&風車

日時：2019年11月10日（日曜日）

9時55分～16時

会場：ふくしま医療機器開発支援センター

担当幹事：太田貴之（山口薬局元町店）

東北ブロック長：赤尾眞（米沢市立病院）

第3回J-HOP東北ブロック研修会福島大会

テーマ「口」



ご案内

J-HOP東北ブロックでは年一回各県持ち回りにてブロック研修会を企画しています。

第3回目となる今回のテーマは、(ズバリ)「口(くち)」。薬は口から飲みますし、飲めなくなった場合など、口に関わるあらゆる職種(歯科医師、歯科衛生士、管理栄養士、言語聴覚士など)との連携が今後の“在宅医療の入り口”、“口に関する情報共有が多職種連携の突破口”ではないかと考えております。また患者さんも、口の問題で悩みは多いものと考えられ、これらの問題に対応できる薬剤師の育成がとても重要であると考えています。

上記の内容で皆さまと一緒に話し合いたいと思います。

在宅医療に携わる人たちの裾野を広げていくことがこのJ-HOPの役割でもあります。在宅(介護保険請求)未経験者からベテランまで、さまざまな経験値の人が交流することでボトムアップできる研修会を目指します。薬局、病院の薬剤師、学生の皆さまの多くのご参加をお待ちしております。

日時：2019年11月10日(日曜日) 9時55分から16時

会場：ふくしま医療機器開発支援センター(〒963-8041 福島県郡山市富田町字満水田27番8)

参加費：J-HOP会員2000円 J-HOP非会員4000円 学生：1000円

9:40 受付開始

9:55 **会長講演 J-HOPの最近の他職種と連携した活動と今後の方向性について**

代表理事(会長代行) 宇田 和夫 先生

10:10 **特別講演1：「いつまでも口から食べる！」ための摂食・嚥下指導**

きらり健康生活協同組合 上松川診療所 原 純一 先生

11:10 口に関するグループワーク① ファシリテーター：太田貴之 山口薬局元町店

12:10 **アボットジャパン株式会社共催ランチオンセミナー**

災害時の薬剤師の役割～栃木での被災も踏まえて～

(株)メディカルグリーン 大澤 光司 先生

13:00 口に関するグループワーク② ファシリテーター：太田貴之 山口薬局元町店

14:00 **一般演題(4演題：多職種連携・在宅医療・地域包括ケアなど)**

15:00 **特別講演2：「想いを紡ぐ地域医療連携 ～赤べこ手帳から赤べこNetまで～」**

竹田総合病院 薬剤科調剤室 室長 木本 真司 先生

16:00 閉会挨拶：次回開催県幹事

参加申し込み、一般演題申し込みはQRコードの「こくちーず」よりお願いします。

問合せ先：J-HOP東北ブロック幹事会 jhoptohoku@gmail.com

東北ブロック幹事事務局：米沢市立病院 赤尾真

日本薬剤師研修センター単位：3単位(薬剤師免許番号必須)

日病薬病院薬学認定薬剤師単位：2単位

参加登録
はこちらから



会長講演

『J-HOPの最近の他職種と連携した活動と今後の方向性について』 J-HOP代表理事 宇田 和夫（うだ かずお）先生

2010年にJ-HOPが誕生して10年目を迎えました。現在では約1500人の会員を擁する団体となり、J-HOPの活動も「より地域へ」との考えのもと、ブロック活動を活発化させ、昨年までに全国10のすべてブロックで活動が開始されました。

その一方で、J-HOPを取り巻く環境も大きく変化しました。2016年に全国在宅療養支援診療所連絡会、全国在宅療養支援歯科診療所連絡会と共にJ-HOPは『全国在宅医療医歯薬連合会』を構成する一員となり、これまで3度の全国大会を開催して参りました。

更に、この3団体を含む医療、福祉関連の20団体で構成する『日本在宅ケアアライアンス』の一員として、また厚生労働省主催の全国在宅医療会議のメンバーとして参加を求められるようになりました。

この全国在宅医療会議の席上、議長を務める国立長寿医療センターの名誉総長である大島伸一氏が、「日本の在宅医療推進のステージが実践段階に入った」と述べられました。J-HOPには、日本の在宅医療を実践、活動を通して推進する団体として期待が寄せられています。

限られた時間ですが、J-HOPを取り巻く最近の環境の中で、現在何を期待され、今後どのような活動をしようとしているのか、お話したいと思います。

在宅医療への思いを共有しながら会員同士が繋がり、一人ひとりが主体的に活動している集団、それがJ-HOPです。この強みを生かして、それぞれの地域の在宅医療推進のために何ができるか、今後とも皆様と一緒に考えて参りたいと思っております。



講師略歴

- 1961年12月12日生（茨城県古河市出身）
- 1984年 東邦大学 薬学部薬学科卒業
- 1984年 山之内製薬株式会社（現アステラス製薬）入社
- 1995年 株式会社ファーム（現ファークロス入社）
- 2002年 株式会社ファークロス 介護支援推進室室長
- 2010年 株式会社ファークロス 執行役員 福祉在宅事業部 部長
全国薬剤師・在宅療養支援連絡会創設時社員 副会長
- 2012年 一般社団法人全国薬剤師・在宅療養支援連絡会 副会長
- 2015年 株式会社ファークロス 取締役 人事部 部長
- 2018年 株式会社ファークロス 取締役 事業推進部 部長
一般社団法人全国薬剤師・在宅療養支援連絡会 代表理事（会長代行）

所属団体等

- 一社）全国薬剤師・在宅療養支援連絡会 代表理事（会長代行）
- 日本在宅ケアアライアンス 事業推進委員
- 古河薬剤師会 副会長 ケアマネジャー連携事業担当
- 茨城県古河市在宅医療・介護連携推進協議会委員
- 社会福祉法人下総プリンスクラブ 理事

執筆・監修に関わった書籍

- 『わかりやすい 保険調剤業務』じほう
- 『薬局薬剤師のPOS』エルゼビア・サイエンス ミクス
- 『実践 服薬説明ガイド』薬時日報社
- 『スキルアップのための 薬歴管理サブノート』南山堂 以上いずれも共著
- 『U-CANのケアマネ実務サポートBOOK』ユーキャン 監修
- 『在宅薬剤管理入門 コミュニティ・ファーマシストの真髄を求めて』南山堂 編集

特別講演 1

「いつまでも口から食べる！」ための摂食・嚥下指導

きらり健康生活協同組合 上松川診療所

原 純一（はら じゅんいち）先生

講師紹介・参加の皆さんへご挨拶

福島市内にあるきらり健康生活協同組合 上松川診療所 歯科口腔外科 摂食嚥下外来の原純一です。

私は2010年8月から全国に先駆けて診療所歯科口腔外科としては珍しく、摂食嚥下治療・リハビリテーションを専門としたプライマリケア（医科－歯科－介護連携）を実施。摂食嚥下リハ認定士歯科医師と歯科衛生士を核に在宅・施設・病院で誤嚥させない保存的嚥下治療を展開。嚥下専門検査として嚥下内視鏡検査（＝VE）を年間約1700件累積10000件以上実施。誤嚥性肺炎の減少と正しい食事スタイルを嚥下障害本人と家族ならびに関わる専門職の意識改革と指導に従事させてもらっている。

嚥下障害治療はとても個別性が高いため単純な方法では結果が出ないため、福島県北エリアでは多くの医師看護師管理栄養士介護士ヘルパーケアマネージャーから依頼を受け患者さんのいる場所でチーム医療を展開している。

今回は私達の診療をより多くの方に知ってもらい一緒にみなさんが受け持っている患者さんを一緒にチーム医療させていただけるキッカケになればと考えてお話しさせていただきます。



特別講演 2

「想いを紡ぐ地域医療連携 ～赤べこ手帳から赤べこNetまで～」 竹田綜合病院薬剤科 木本真司（きもと しんじ）先生

薬薬連携とは病院薬剤師と保険薬局薬剤師の連携のもと、患者情報の共有を行い、充実した医療に結びつけるための連携と定義され、連携を充実させるための議論は各学会でも活発に行われている。最近ではICTを利用した医療連携も全国の多くの医療機関が取り組み、一定の成果を上げているのも事実である。

しかしながら多くの薬薬連携は、医療機関と近隣薬局との狭い範囲での連携や、病院から保険調剤薬局への一方向の情報伝達にとどまっているとの問題点も指摘されている。医療機関の機能分担が進められ、患者は複数の医療機関を受診する事も多いことから、薬薬連携も医療圏全体での薬薬連携、すわなち、患者と接する全ての病院薬剤師、薬局薬剤師同士で連携を行う事ができるネットワークの構築が急務である。

我々は2013年よりお薬手帳を『赤べこお薬手帳』に統一する事で、患者の手帳複数所持がなくなり、薬物間相互作用や重複の回避が容易になり、さらには治療中の病名や病状、臨床検査値、治療内容、処方意図等の医療情報が共有できるようになった。一方で福島県医療福祉情報ネットワーク協議会では、病院、診療所、歯科診療所、薬局、介護施設をインターネットで結び、患者さん同意のもと、医師、歯科医師、薬剤師、看護師などが診療情報を共有できる『キビタン健康ネット』が構築されている。当院もキビタン健康ネットに参加しており、診療録情報の中で処方オーダー、注射オーダー、検査結果の内容を情報公開している。しかしながら、患者の治療背景や医師の治療方針、薬剤師の指導内容、何よりも患者の訴えや問題点などの情報は公開されない。キビタン健康ネットで公開されていない情報はトレーシングレポートをFAXやe-mailで共有していたが、誤送信の問題やレポート作成に時間がかかるなどの問題が散見された。そこで我々はインターネットを利用した独自のネットワーク【赤べこNet】を構築し情報共有を行っている。

本講演では、地域統一型お薬手帳の『赤べこお薬手帳』と独自の医療ネットワーク『赤べこNet』の両方を利用した医療連携の実際を紹介すると共に、これらのツールが在宅医療に活かせるかをお話したい。

講師略歴

- 平成4年 福島県立会津高等学校卒業
- 平成8年 星薬科大学卒業
- 平成10年 星薬科大学大学院薬学研究科卒業
- 平成10年 ノボ ルディスクファーマ株式会社 臨床開発部 入社
- 平成13年 財団法人 竹田綜合病院 薬剤科 入職
- 平成18年 薬剤科 品質管理係長就任
- 平成24年 薬剤科 調剤室室長就任 現在に至る

役職・資格

- 日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師
- 日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師
- 日病薬病院薬学認定薬剤師
- 福島県病院薬剤師会 理事
- 福島県薬剤師がん薬物療法研究会 世話人(事務局)
- 会津薬薬連携協議会 事務局長



アボットジャパン株式会社共催ランチョンセミナー

災害時の薬剤師の役割～栃木での被災も踏まえて～

株式会社メディカルグリーン代表取締役 大澤 光司（おおさわ こうじ）先生

記憶をたどれば、近年の日本では、2011年の東日本大震災以降、2015年には関東・東北豪雨、2016年熊本地震、2018年岡山豪雨そして、2019年10月台風19号による豪雨と大規模災害が多発しています。私は東日本大震災の際には、薬剤師ボランティアとして3回、福島県相馬市に入りました。また、熊本地震と岡山豪雨の際には現地視察を行い、被害の実態を目にしてきました。そして、今回の台風19号による豪雨では、自宅が床下浸水、薬局3店舗が床上浸水、自家用車4台と社用車6台が水没という被害にあってしまいました。

情けない、そして恥ずかしい話ですが、被害にあうまでは、災害は他人事で、まさか自分が被災するとは夢にも思っていませんでした。これまで、「災害時の薬剤師の役割」というテーマで何回も講演をさせて頂いてきましたが、その際にも「栃木は災害が少なく安全な街ですの・・・」と話していました。今から考えれば危機意識が極めて弱かったと言わざるを得ません。

今回の講演では、東日本大震災の際に行った薬剤師としてのボランティア活動を中心に、「災害時の薬剤師の役割」について、お話し、最後に今回の栃木での被災を通して、気づいた事、今後の防災に役立ててほしい具体的対策について、お伝えできればと思います。

講師職歴

- 1961年1月31日生まれ
- 1983年 東京薬科大学薬学部薬学科卒業
(株)紫山堂(シザンドウ) 薬局勤務
- 1986年 (株)大沢調剤薬局開局
- 2000年 (社)栃木県薬剤師会 理事
- 2004年 (社)栃木県薬剤師会 常務理事
(株)メディカルグリーン(社名変更) 代表取締役就任
- 2009年 日本薬科大学 非常勤講師
- 2010年 (社)栃木県薬剤師会 副会長
- 2010年～2018年 (一社)全国薬剤師・在宅療養支援連絡会会長
- 2014年～2018年 (一社)栃木県薬剤師会 会長
- 2019年 地域医療に貢献する薬局研究会 会長



現職

地域医療に貢献する薬局研究会 会長、蔵の街コミュニティケア研究会 代表世話人、一般社団法人日本地域薬局支援機構理事、栃木商工会議所議員、栃木法人会栃木地区会常務理事、ハローワークとちぎ理事、認定NPO法人「蔵の街たんぼぼ会」理事、都市型の看護介護医療等連携研究会委員、日本在宅ホスピス協会世話人、在宅ケアネットワーク栃木世話人、栃木地区薬・薬連携研修会世話人、糖尿病みんなで連携フォーラム世話人 栄養ケアネットワークとちぎ世話人 他

著書・著作歴

「ファーマシューティカルコーチング」(じほう)、「高齢者とお薬」(環境新聞社) 他

共同著書

薬学と社会(中山書店)、在宅医療Q&A(じほう)、効果につなげる薬物治療アドヒアランスの改善(医薬ジャーナル)、私の治療(日本医事新報社)、スーパー総合医(中山書店)、在宅薬剤管理入門(南山堂)、明日の在宅医療(中央法規)、ケアマネのための知っておきたい医療の知識Q & A(学陽書房)、信頼される薬剤師の行動マナー困ったときのコミュニケーションQ & A(薬ゼミ情報教育センター)、薬剤師のためのコミュニケーションスキルアップ(講談社) 他

所属学会 ○日本医療薬学会○ファーマシューティカルコミュニケーション学会 ○日本緩和医療薬学会

受賞歴 ○平成25年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰

内閣府特命担当大臣奨励賞(スマイル オープナー)

○栃木県経済同友会 平成28年度優秀起業家賞

口に関するグループワーク

➤グループワーク①

摂食・嚥下障害に気付くには？ 専門職種はここに目をつける！

➤グループワーク②

繋げる！ 入口から出口へ！ 治療から予防まで、どう連携する？

一般演題

一般演題テーマは基本的に自由です(Key Word : 在宅医療・薬薬連携・多職種連携・退院支援・地域包括ケアなどなど) 。お互いの取り組みや臨床での悩みなど共有できればと思い企画しています。

1. 嚥下障害が疑われる患者を専門医に紹介した医療連携事例

クオール薬局南沢又店 佐藤 暁彦 先生

2. 地域医療における問題点を考える

～薬剤師による在宅訪問の視点から～

つばさ薬局 佐々木 菜穂 先生

3. 慢性疾患にて内服治療中の小児において在宅を導入した例

アイン薬局二本松店 鈴木 紗希子 先生

4. ドラッグストア薬剤師×保険調剤薬局の“薬薬連携” ビックカメラドラッグ事業部札幌店 佐賀美 裕明 先生

前夜祭情報

日時：2019年11月9日 19時より

会費：4000円

会場：なごや香 郡山駅前店(福島県郡山市駅前2-3-8 エリート39ビル 7F)

毎回、研修会の前日に前夜祭を企画しています。

ざっくばらんな情報共有が出来る場ですので、第4回目の際も宜しければ皆さんご参加お願いします。

研修単位

日本薬剤師研修センター：3単位

日病薬病院薬学認定薬剤師単位：2単位 特別講演1：V-3 0.5単位

特別講演2：Ⅲ-2 0.5単位

グループワーク：V-3 1単位

主催

一般社団法人全国薬剤師・在宅療養支援連絡会 (J-HOP)

共催

ランチョンセミナー：アボットジャパン株式会社

後援

一般社団法人郡山薬剤師会

一般社団法人福島県薬剤師会

一般社団法人宮城県薬剤師会

一般社団法人山形県薬剤師会

一般社団法人秋田県薬剤師会

一般社団法人岩手県薬剤師会

一般社団法人青森県薬剤師会

福島県病院薬剤師会

ご案内

全国薬剤師・在宅療養支援連絡会 (J-HOP) は、いつでも会員を募集しています。

在宅医療や介護の現場で、薬剤師の悩みを、いつでも共有・相談できる場です。これから在宅医療連携の新たな第一歩を踏み出そうとする方も、是非この機会にJ-HOPへ入会されることをお待ちしております。皆さんとどんどん繋がりを持って、薬剤師としても共に学び、自分の目の前の患者さんへより良い薬剤師業務ができるようにしたいですね。

今後も東北ブロックでは東北各県にて、このような在宅医療連携の裾野が広がるような研修会を企画していく予定です。研修内容の希望などありましたら、左記の東北ブロック幹事メールへご意見いただくと、今後の参考とさせていただきます。今後とも宜しくお願い致します。

J-HOP入会案内



J-HOP東北ブロック幹事
jhoptohoku@gmail.com